

平成30年度 修了式式辞

今、学年の代表の人に「修了証」を手渡しました。皆さんはこの後、各クラスに戻り、担任の先生から受け取ってください。その「修了証」ですが、これまで学期ごとに渡していた「通知表」と同じものです。違うのは、表紙、正しくは表紙の反対側に先ほど読み上げた「修了証」という言葉が記されていることです。はんこもそこには押してあります。

さて、「それぞれの学年を修了した」と言いましたが、一人一人に尋ねます。どうですか、修了できましたか。英語の単語や新しい漢字を覚えることはできましたか。数学の公式を使って問題を解くことはできるようになりましたか。机を班にして自分の意見をしっかりと述べることはできましたか。友達の意見を「うん、うん、なるほど」「へえ、そういう考えもあるのか」とうなずきながら聞くことができましたか。部活動では、これまでできなかったシュートが打てるようになりましたか、なかなか切れなかったタイムを出すことができましたか。こんなふうに、この一年間で皆さんは多くのことを学びたくさんの成長をしてきました。

しかし自分の中ではそうやって成長しているのに、人はつい他の人と比べてしまいます。テストが返ってくると、「あー、負けた」「私、どうしても勝てない」と自分のできない部分に目がいてしまいます。そんな皆さんに、先生がこれまで担任してきた子たちに修了式、またはその近くの授業で話をしてきたことを伝えようと思います。

皆さんが生まれて13年、14年経ちました。その10か月前を思い出してください。思い出せといわれても、その時はお母さんのおなかの中で新しい命が誕生した時ですから覚えているはずはないのですが、その話をしたいと思います。小学校や中学校の理科で習ったと思いますが、人などの動物は雌、お母さんの体の中にある卵子と、雄、お父さんの体の中にある精子とが結びついて「受精卵」となり、それがお母さんの体の中で少しずつ少しずつ大きくなって赤ちゃんとして誕生してきます。男子に聞きます。その精子、一度にどれだけの精子が出されるか知っていますか。調べるとさまざまな数字が出てきますが、1から4億と書いてある資料もあれば、2、3億と書いてあるものもあります。まあ、おおよそ2億と考えてください。その2億もの精子がお母さんの体の中に入ります。さて次は女の子に聞きます。自分の体の中、どうなっているか知っていますか。実は人間の体はさまざまな菌やウイルスから身を守るために強い酸性になっています。酸性。「酸」「アルカリ」の酸性です。体の中に入って

きた精子を、お母さんの体は、外から侵入してきた外敵だと判断し、酸性の体でそれを攻撃し始めます。すると、精子は1匹死に、2匹死に…、と次々に減っていきます。さっきまで卵子に向かって隣で泳いでいた精子が、気づいたらいなくなっているんです。後ろをついてきていた仲間の精子が、振り返るともうそこにはいないんです。そして、結果的にわずか1匹の精子、2億いた中でもっとも強い精子だけが卵子と出会い受精卵となることができるのです。つまり、生まれてきた赤ちゃんは、2億もの中でもっとも強く優秀な精子と卵子がくっついて生まれた命なのです。そう、それが皆さんです。

昨日、イチロー選手が引退を発表しました。今朝、そのニュースを見て驚いた人も多いと思いますが、イチロー選手は日本のプロ野球だけでなくアメリカの大リーグでも素晴らしい成績を残した選手です。世界一の選手と言ってもいいでしょう。でも、世界で野球をしている人はどれだけいるか知っていますか。実は、3500万人だそうです。世界一と言われるイチロー選手でさえ、3500万人のトップです。でも、皆さんは、それをはるかに超える2億の中のトップなんです。自分の中で生きている命がそんな素晴らしいものだということを決して忘れないでください。そして、皆さんの隣にいる子の命も、同じように2億の中のトップの命なんです。「なんで僕は勉強ができないんだ」「あの子と比べて私なんか…」と思うのではなく、「2億の中のトップなんだ」という気持ちをもってください。そして、その大切な命を、決して自らの手で絶つことのないようにしてください。あなたがたの命はそれくらいすばらしく大切なものですから。

これが校長先生が最後に、皆さんに直接伝えたかったことです。皆さんのこれからの活躍、そして弥富中学校の発展をこれからも応援しています。